

今週のメニュー

■[年頭挨拶](#)

塩ビ工業・環境協会 会長 栗田 守

■[年頭所感](#)

塩ビ工業・環境協会 専務理事 柳澤 伸治

■年頭挨拶

塩ビ工業・環境協会 会長 栗田 守

皆様、明けましておめでとうございます。平素は塩ビ工業・環境協会の活動に多大なるご理解とご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。新年にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

Covid-19 の蔓延が続く一方、with コロナの生活に舵を切りつつ始まった 2022 年は、2 月 24 日のロシアによるウクライナ侵攻によって混乱の一年となりました。原燃料価格、物流費の高騰は世界中にインフレをもたらし、わが国でも近年にない円安も相俟って多大な影響を受けました。この非人道的な戦争が一日でも早く終結することを願うばかりです。

さて、2022 年度の GDP 成長率はほぼ前年度並みの 2%強と推定され、私ども塩ビ業界も生産・出荷共におおむね前年度並みになると見込んでおります。いくつかの懸念材料はあるものの、インバウンドを含む国内消費の回復、半導体不足の解消による自動車の生産量回復、緩和的な財政・金融政策による景気の下支えなどにより、今後の成長に期待したいところです。

以上のような背景のもと、当協会が注力して参りました活動の内容と 2023 年の方針について簡単に紹介させていただきます。

まず広報活動では、前年度に実施した PVC Award 2021 の受賞作品など、特長ある塩ビ関連製品の取材に注力しました。行動制限の緩和によって対面による中身の濃い取材ができたことは幸いでした。今後も魅力ある塩ビ関連製品を皆さまにご紹介できるよう努めて参ります。また出前授業などの青少年教育にも貢献できるよう、引き続き対応いたします。さらに 2022 年 12 月には、国内最大級の環境展である第 24 回「エコプロ 2022」展に出展しました。「生活を豊かにする PVC 製品」をコンセプトに、身の回りの多くの PVC 製品を認識してもらうことに注力すると共に、防災・省エネなどの社会貢献や、医療・福祉分野での活用、さらにはリサイクル性の紹介を軸にサンプル品やパネルを展示しました。コロナ禍により全体的に規模を縮小しての実施でしたが、前回 2018 年の出展時と比べ、当協会ブースへの来場者の割合は大幅に増え、3 日間で 5 千人を超える来場者にお越しいただきました。塩ビの特性やリサイクル性に関するクイズラリーに回答いただいた来場者に配布する塩ビ製のポーチや筆入れなどのノベルティグッズには、「VEC」のロゴや協会ホームページにアクセスするための QR コードを入れるなど、若い世代との接点を増やすための工夫

も取り入れました。今後もこのような新しい方法による訴求方法を積極的に取り入れ、若い方々も含む幅広い世代に塩ビのことを知っていただけるよう努めて参ります。

次に建材関連では、樹脂窓および窓周辺での新たな塩ビ製品の開発や普及に引き続き注力しました。樹脂窓の普及促進に欠かせない要素である防火性能は、各メーカーともその認定試験に膨大なエネルギーを要しており、開発の足かせとなっています。そこで当協会は、東京大学野口教授の協力のもと、防火認定試験の簡素化に取り組むべく、研究会を発足しました。比較的簡便な燃焼試験により樹脂窓の防火性能が推定できるようにすることで、認定に至る工程を簡素化し、各メーカーの開発がより一層促進されることを目指して引き続き取り組んで参ります。また、世界的なカーボンニュートラル(CN)の流れに従い、わが国でも 2050 年に CN 達成という目標に向けて数々の施策が打ち出されています。住宅周辺での省エネや CN への貢献も例外ではなく、当協会は、芝浦工業大学秋元教授の協力のもと、優れた断熱性能によって特に冬季の省エネルギー効果が期待される樹脂窓に加え樹脂シャッター、樹脂ブラインド等による夏季の省エネルギー効果を検証しています。また、併せて学識経験者、住宅建材メーカー、関係省庁等のご協力のもと、これら省エネ建材を使用した建築物の使用時における総合的な CN を検討すべく検討を進めており、確かな感触を得つつあります。2023 年度も引き続き、樹脂窓をはじめとした塩ビ製品の一層の普及に努めます。

一方、2022 年 4 月にプラスチック資源循環促進法が施行となりプラスチックの使用やリサイクルに関する各種規制が強化されつつあります。塩ビ製品は、長寿命用途が多いもののリサイクルの推進は引き続き重要な課題です。2022 年は、東京大学清家教授の協力のもと、日本サッシ協会、樹脂サッシ工業会とともに樹脂窓リサイクル検討会において、北海道内での廃樹脂窓の回収・解体に係る検討、再生原料の品質確認や利用についての検討を行いました。まだまだ難しい課題は残されていますが、樹脂窓リサイクルの推進に対して、関係者の皆様からの前向きなご意見を頂けましたことは私どもにとって大きな支えとなりました。この活動が実際に実を結ぶよう、これまで以上に関係者の皆様との協業に邁進して参ります。また、より一層のリサイクル推進を目指し、東北大学吉岡教授との塩素循環に関する勉強会を 2022 年 11 月に発足しました。この勉強会では、塩ビ製品のリサイクルや塩素循環等における共通課題の洗い出しと解決策の提案を目的とし、廃棄処分される塩ビ製品から塩素を回収し原料として利用する「塩素循環システム」の構築を目指します。当面は VEC 会員、協賛会員各社からの参加者により出口戦略の検討を行う予定ですが、2023 年は、より幅広い分野からの参加者も募って参りたいと考えております。

ウクライナ情勢などによりエネルギー問題が一層深刻さを増している状況下、塩ビ樹脂の優れた環境性能やマテリアルリサイクル性、さらには塩素循環の観点でも大きな可能性を秘めている点などについて、より多くの方々に知っていただく活動を鋭意進めて参る所存ですので、引き続き関係各位のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、塩ビ事業に携わっておられる各社の益々のご隆盛と、皆様のご健勝を祈念致しまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

令和5年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の波が日本において3つ（第6波、第7波、第8波）来ましたが、同感染症の致死率が世界的に低下し、季節性インフルエンザによる致死率に近づいてきたことから日本政府は経済活動の正常化に舵をきることになりました。具体的には、昨年10月、水際対策を緩和し、インバウンド（法日外国人客）の受入れ拡大と全国旅行支援制度による国内旅行へのテコ入れ等を行いました。コロナ禍の非日常から通常の日常に徐々に戻りつつあると実感できるようになりました。

一方で、昨年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻の影響並びに、中国での新型コロナウイルス感染症の拡大・ロックダウンの長期化等により、国際的なサプライチェーンが混乱しました。原油、LNG等のエネルギー価格に加え、貴金属や穀物などのコモディティ価格も上昇し、インフレ率の上昇が世界的に大きな問題となりました。国際通貨基金の見通しによれば、世界経済のインフレ率は2021年の4.7%から2022年には8.8%に上昇すると見込んでいます。

この他、昨年はプラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律が4月に施行され、製品の設計からプラスチック廃棄物の処理までに関するあらゆる主体においてプラスチック資源循環等の取組を政府として支援・促進することとなりました。さらにエジプトで開催されたCOP27では、途上国の強い要求を受けて、気候変動により受けたロス&ダメージに関して資金面での措置（基金）を講じることが決定されました。

塩ビ工業・環境協会としましては、本年も新型コロナウイルスとの闘いが続くことを念頭に、当協会の定款に記述された以下の2つの目的を達成するために全力で事業を推進していきます。

- 塩化ビニル工業に関する環境、安全に係わる諸問題の調査・研究及びその成果の普及を通じ、塩化ビニルに関する正しい理解を広める
- 塩化ビニル工業に関する生産、技術、流通、消費等の調査・研究を行い、もって塩化ビニル工業の健全な発展に寄与する

特に世界経済が上記のようにインフレ率の上昇に伴って減速することが避けられないことから（国際通貨基金の見通し：世界経済のGDP実質成長率は2022年3.2%、2023年2.7%）、塩ビ製品の世界的な需要拡大も一服することが予想されます。一方で塩ビ製品は耐久性（長寿命）、断熱性、製造時の二酸化炭素排出量等の面で優れた特性を有していることから、脱炭素社会の形成に大きく貢献する可能性があると考えています。本年も引き続き当協会は、塩ビ製品の正しい理解の増進と需要拡大に努めて参ります。

昨年12月にはカタールでサッカーのワールドカップが開催され、日本は予選リーグを1位で通過する等、事前の予想を覆した活躍をしました。日本チームが目標としていたベス

ト8進出はかなわず、「新しい景色」を見ることはできなかつたですが、日本チームのポテンシャルの大きさは十分に感じる事ができました。新年を迎えて我が国は新型コロナウイルス感染症の拡大、インフレ率の上昇等大きな課題が壁となって立ちふさがっていますが、日本人の知恵と勇気で難局を打開し、「新しい景色」を見る事ができることを期待しています。

最後に塩ビ業界の皆様の益々のご発展とご健勝、そして令和5年が皆様方にとって素晴らしい一年となることを心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp
